

意見照会・意見交換について

- 都内13の医科大学又は医学部を持つ大学に、大学の恒久定員内での実施を想定した地域医療医師奨学金の実施意向について意見照会（令和2年6月16日～6月30日）
- 奨学金の実施意向の有無に関わらず、意見交換を希望する大学とは意見交換を実施（令和2年8月4日～6日）

（奨学金実施意向のある大学数）

現行制度どおりの勤務要件とした場合	現行制度をベースに総合診療など特定の診療科や診療分野を追加した場合	診療科を限定せず、医師少数区域での一定年数の勤務要件を設定した場合
6 大学	6 大学	3 大学

論点と主な大学意見

✓ 恒久定員内での実施

- ・臨時定員増についての国の方針が示された時点で慎重に検討する。
- ・特定の診療科に必ず来ることになるので、恒久定員では駄目だということはない。今は、整形外科や眼科・皮膚科・精神科など、患者の生死に直接関わる機会が比較的少ない診療科に人気偏る傾向があり、診療科の指定は大学にとってメリットにもなる。

✓ 特別貸与か一般貸与か（別枠入試か入学後手挙げか）、貸与金額は学費全額か一定額か

- ・意志の固い受験生が集まるため入試は別枠が望ましい。入学後は将来の選択の自由を選ぶ。手を挙げて、自分の未来を拘束する者は少ない。
- ・大学としては、入学後手挙げの方が好ましいが、別枠入試も検討したい。
- ・入学後手挙げの方式の場合、定着しないとも聞くので、別枠入試を希望する。
- ・貸与額は、大学としては全額がいい。しかし、各大学の学費の違いを考慮すると一定額の方が公平性が高いとも考える。

✓ 勤務要件の変更（診療科の拡大・地域要件の設定）

- ・診療科の拡大に関しては、選択肢が広がるので良い。地域要件に関しては、「インセンティブ付与」が望ましい。
- ・地域要件の設定はよいのでは（ただ、多摩地域との連携は少ない）。
- ・外科系は志望者が激減しており、診療科の拡大は重要なポイント。西多摩には強い関連病院がある。

✓ 海外留学・大学院進学等キャリアアップへの配慮

- ・望ましい。特に、大学院進学については大学として強く推奨している。
- ・大学院進学者は多い。臨床研修後の選択肢となっており、社会人大学院進学者も割と多い。ただ、社会人大学院は勤務との両立がハード。
- ・海外留学については、若手医師で行くことは現実的ではないのではないか。また、留学中につながりが切れる可能性がある。

✓ 初期臨床研修先の拡大

- ・現行制度どおり、自大学附属病院を希望。ただし、臨床研修定員の削減により、定員からあぶれないか心配
- ・学生が自らのキャリアパスを考える際に自由度が高い方が好ましいため、都内全臨床研修病院としてはどうか。